

SPP 検査

【どんな検査？】

OSPP とは **S**kin **P**erfusion **P**ressure（皮膚灌流圧）の略です。

○手足あるいは指先の皮膚にどの程度血液が行き渡っているかを調べる検査です。

【どうやって測定するの？】

○皮膚内を流れる血液を捉えるセンサの上から、血圧を測定するときに腕に巻くのと似たようなカフを巻きます。カフに圧をかけて、その部分の血流を一時的に遮断した後、一定の速度で圧を緩めていき、血流が再開し始めた圧を計測します。

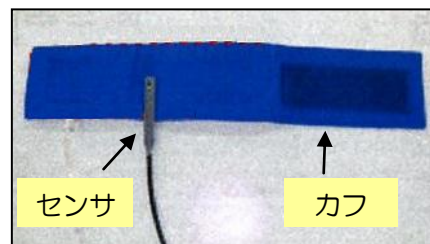
【痛くないですか？】

○血圧を測るようなものなので、基本的にはカフで圧迫されるような程度ですが、傷があったり、もともと痛みがある場合には、検査による痛みを訴える方もいます。

【すぐ終わりますか？】

○検査にかかる時間は、測定箇所の数や患者さんの状態によっても変わってきますが、1ヶ所だけなら30分程度、4-5ヶ所だと1-2時間程度かかることもありますので、検査の前にトイレを済ませておくことをおすすめします。

【何のためにするの？（検査の目的）】



↑測定部位にセンサを取りつけて…



↑カフを巻いたら、測定開始！

◎CLI（重症虚血肢）の アセスメント

→ 手や足の血管が詰まったり、細くなったりすると、手足の先まで血液が行き届かなくなり（この状態を虚血といいます）、長い距離を歩けない・手足が冷える・しびれるといった症状が出てきます。この虚血の程度を調べて、今後の治療方針の参考とします。

◎PTA（経皮的血管形成術）、 下肢バイパス術のモニタ リング

→ 手足の血管に虚血があった場合に、血管の迂回路を作って、血液の流れを回復させる治療法があります。その手術によって、血流が回復したかどうかを判定する目的で SPP 検査を実施します。

◎難治性潰瘍の治癒予測

→ 手足の傷がなかなか治りにくいといった場合の原因のひとつに、血液が十分に行き届いていないことが挙げられます。SPP 検査をすることで、傷が治りにくい原因の推定や、回復するかどうかの予測、また、手術が必要かどうかといった判断をする際の参考となります。

◎四肢切断レベルの判定

→ 手や足の先にどの程度・どのあたりまで血液が流れているかを調べます。

◎糖尿病性足病変や 石灰化症例の重症度評価

→ 糖尿病の合併症によって血行障害が出てくると、足に潰瘍や壊疽ができてしまいます。このため、足の皮膚にどの程度血流が流れているのかを調べ、重症かどうかを判定する指標のひとつとして使います。また、血管の内側にカルシウム分が付着して、血管が硬くなると、ABI（別項参照）の計測が困難になってしまいますが、そういった方の場合でも SPP は測定することができます。